

令和6年度の学校経営の改革方針

津市立一身田中学校

1 学校教育目標 「さとく、やさしく、たくましく生きる生徒の育成」

<p><知> さとく 仲間との学び合い、様々な体験、新しいことへの挑戦をとおして、学びに向かう力を育む</p>	<p><徳> やさしく やさしい心を持ち、人とかわり、人とつながる力を育む</p>	<p><体> たくましく 身体を鍛え、心を磨き、たくましく、自分らしく生きる力を育む</p>
------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------

自主性、社会性を育成し、豊かな人間性、自律の精神を醸成する
社会に貢献する人材、国際的な視野を持ち郷土を愛する人材の育成する

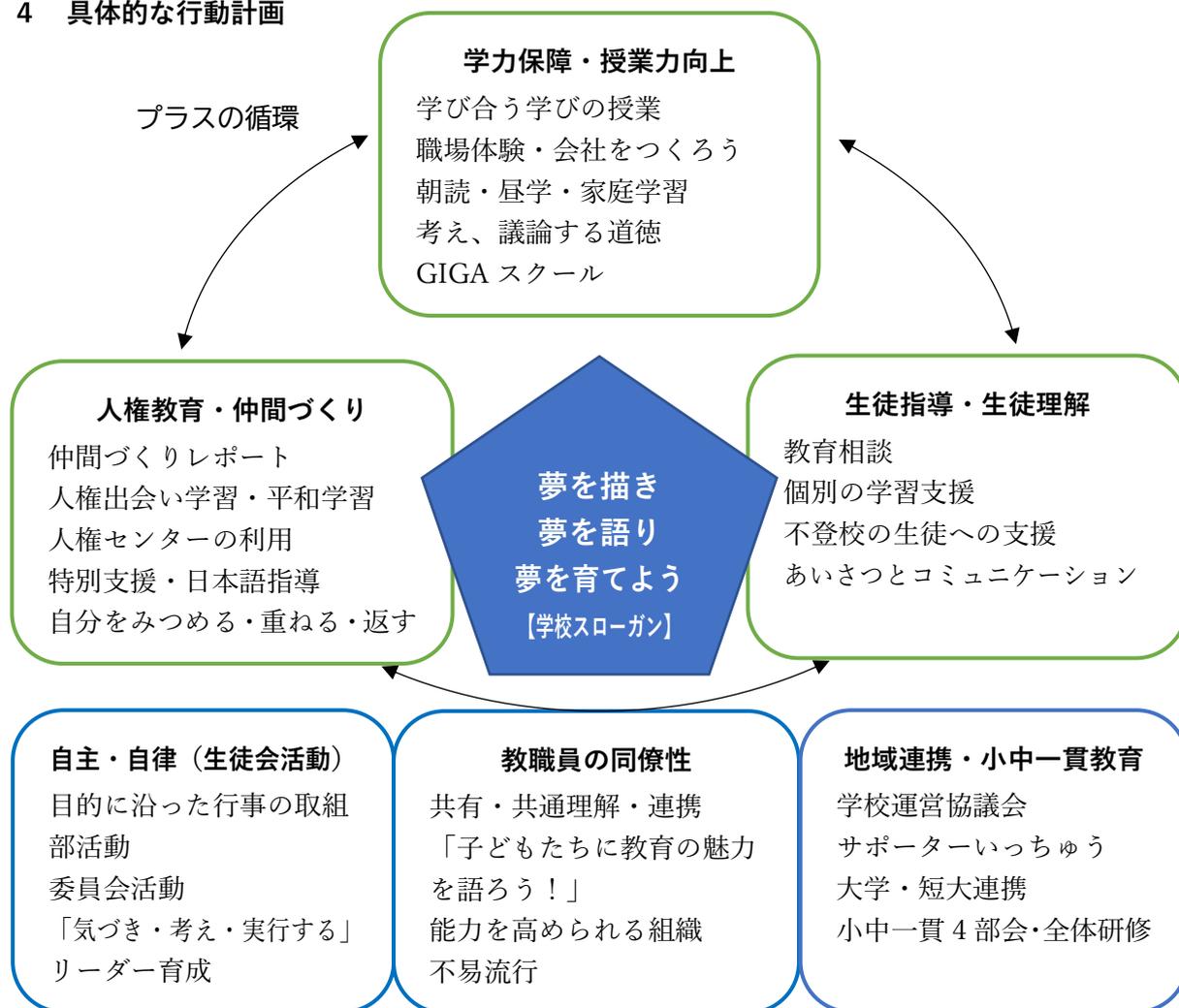
2 現状と課題

- ① すべての生徒の学びを保障する「学び合う学び」の授業づくり、学校づくりが9年目を迎え、引き続き生徒たちのつながる関係、学びに向かう力の醸成と授業改善、授業力の向上に努める。
- ② 職場体験や起業体験「会社をつくろう」等のキャリア教育を進め、社会性、自主性を育てる。
- ③ 自己肯定感の低い生徒、人との関係づくりが苦手な生徒、家庭環境が厳しい生徒、家庭の教育力に課題がある生徒がおり、人の気持ちや心の痛みを考えられていないと感じる場面がある。
- ④ 挨拶ができ、気さくで裏表のない生徒が多く、生徒会活動などの自主的な活動に意欲的に取り組む。反面、表現がストレートで相手のことを考えずに言動することがある。
- ⑤ 不登校や別室登校の生徒への支援、個別の支援、外国につながる生徒への支援を行うとともに、仲間づくり、人権教育の推進が必要である。
- ⑥ 地域から慕われる学校であり、温かい支援が寄せられる。学校支援地域本部「サポーターいっちゅう」、三重大学教育学部等と協働し、特色あるカリキュラムを編成してきている。

3 重点目標

- ① 「学び合う学び」の授業をとおして学力保障に取り組むとともに、授業力、教師力の向上を図る。
- ② 生徒同士がつながる「仲間づくり」に取り組み、人権教育を推進する。
- ③ 生徒、保護者との信頼関係を築き、生徒理解を深め、心の通う生徒指導に努め、自律の精神を醸成する。
- ④ 生徒会活動、ボランティア活動、地域活動などをとおして生徒の自主性や「気づき」「考え」「実行する」態度を育てる。
- ⑤ 小中一貫教育を進め、地域と協働した学校運営に取り組む。
- ⑥ 教職員の同僚性を醸成し、不易流行の考えのもと、学校の働き方改革と教職員の資質向上を一体的に取り組む。

4 具体的な行動計画



5 具体的な改善の取組

- ① 生徒をつなぐ仲間づくり、子どもを見る眼を学び合う。（津人教研究大会でのレポート発表の機会をとおして、レポーターの学びはもちろん、学校全体の学び、中学校区の学びへ）
- ② 校内教育支援センター（学習室）の体制づくり、機能の確立を目指す。学習室担当者と生徒指導担当、担任、学年担当者が連携し、学習室で学習できる生徒を増やす。
- ③ 自主・自律の涵養を図る。生徒指導、学級・学年づくり、生徒会活動などの場面を使い、「気づき、考え、実行する」態度を育てる。
- ④ カリキュラムの改善
 - ・ 総合的な学習の時間では、キャリア教育、人権学習を中心とした学習を継続し、指導要領の目標に基づいた探究学習をすすめ、学習評価を見直す。
 - ・ カリキュラム・マネジメントとして、総合的な学習・学活の時間を計画的に運用し、教科の授業時数を確保する。
- ⑤ 学校の働き方改革
 - ・ 部活動は、津市の「指針」に基づいた活動時間、休養日を設定し、達成率 100%とする。
 - ・ 年次有給休暇+特別休暇の取得日数を令和 5 年度（年間 21.4 日）より増やす。
 - ・ 60 分以内終了した放課後の会議は、達成率 60%とする。
 - ・ 月 2 回以上設定する定時退校日は、達成率 80%とする。
 - ・ 月 45 時間超えの延べ人数 20%減（年間延べ 165 人以下）、平均 42 時間以下とする。